

【今週の注目疾患】

《後天性免疫不全症候群》

2026年第32週に県内医療機関から届出が3例あり、本年の累計は26例となった（図1）。病型別は、無症候性キャリアが16例（62%）、AIDSが8例（31%）だった（図2）。

図1：2017年から2026年までの県内の後天性免疫不全症候群診断年別届出数

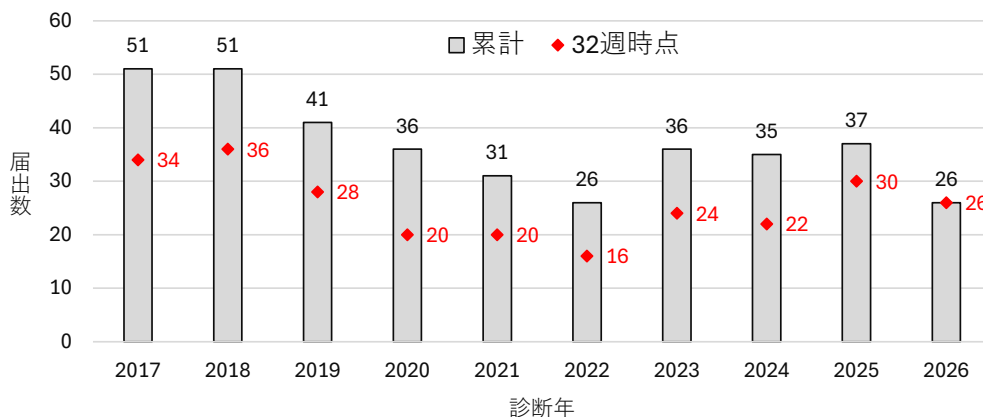
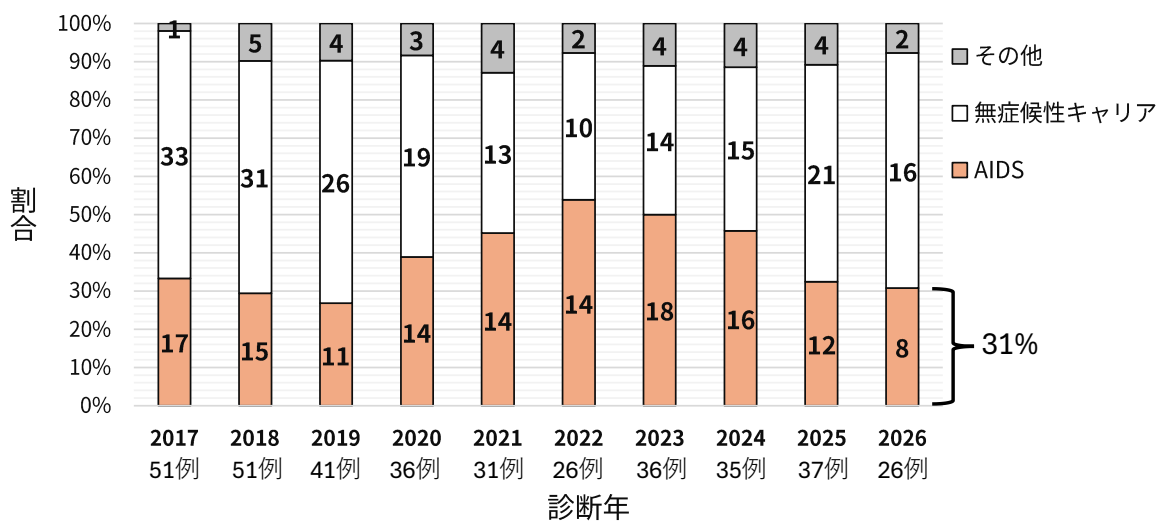


図2：2017年から2026年までの県内の後天性免疫不全症候群診断年別・病型別届出数（2026年第32週時点）



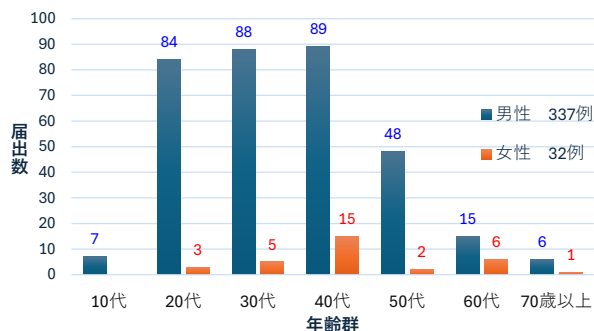
2017年から2026年第32週までに届出のあった369例の概要は以下のとおり。

性別は、男性337例（91%）、女性32例（9%）であり、男性が9割以上を占めた。病型別は、男性では無症候性キャリアが187例（56%）で最も多く、次いでAIDSが118例（35%）、その他32例（9%）であった。一方、女性ではAIDSが21例（66%）で最も多く、次いで無症候性キャリア10例（31%）、その他1例（3%）であった（表）。年齢群別は、男性では20代から40代が多く、女性では40代が15例で最も多かった（図3）。

表：2017年から2026年までの県内の後天性免疫不全症候群の性別・病型別届出数
n=369（2026年第32週時点）

		無症候性キャリア	AIDS	その他
男性	337例	187(56%)	118(35%)	32(9%)
女性	32例	10(31%)	21(66%)	1(3%)

図3：2017年から2026年までの県内の後天性免疫不全症候群の年代別届出数 n=369
（2026年第32週時点）



後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus；HIV）に感染することで免疫不全が生じ、健常者では通常見られないさまざまな日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態をいう。HIV感染の自然経過は感染初期（急性期）、無症候期、AIDS発症期の3期に分けられ、時間が経過するとともに免疫システムの破壊が進行するため、早期診断、治療がとても重要となる。近年、さまざまな研究において、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のウイルス量が検出限界値未満（Undetectable）のレベルに抑えられているHIV陽性者からは性行為によって他の人に伝播しない（Untransmittable）こと（U=U）が分かってきており、早期治療の開始で新たな感染を防止する（Treatment as Prevention; T as P）という考え方が主流になっている^{1,2)}。

千葉県では無料・匿名の検査を実施しています

県では、保健所等において無料・匿名のエイズ等の検査を日中、夜間、休日に実施しています。感染が気になる方や不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールをご確認の上、ぜひご活用ください³⁾。

■参考・引用

1)厚生労働省：HIV とエイズ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/aids/index.html

2)国立健康危機管理研究機構：AIDS（後天性免疫不全症候群）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/alphabet/aids/index.html>

3)千葉県健康福祉部健康福祉政策課：千葉県内のエイズ等相談・検査

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>